

1. 川崎南部地域の現状及び課題等

- ・人口全体は2025年をピークに減少するが、高齢者人口は年々増加し、特に75歳以上は2015年比で2025年には1.32倍、2040年には1.46倍になり、今後も救急やがん等の患者数は全体的に増加すると推計されている（下図）。

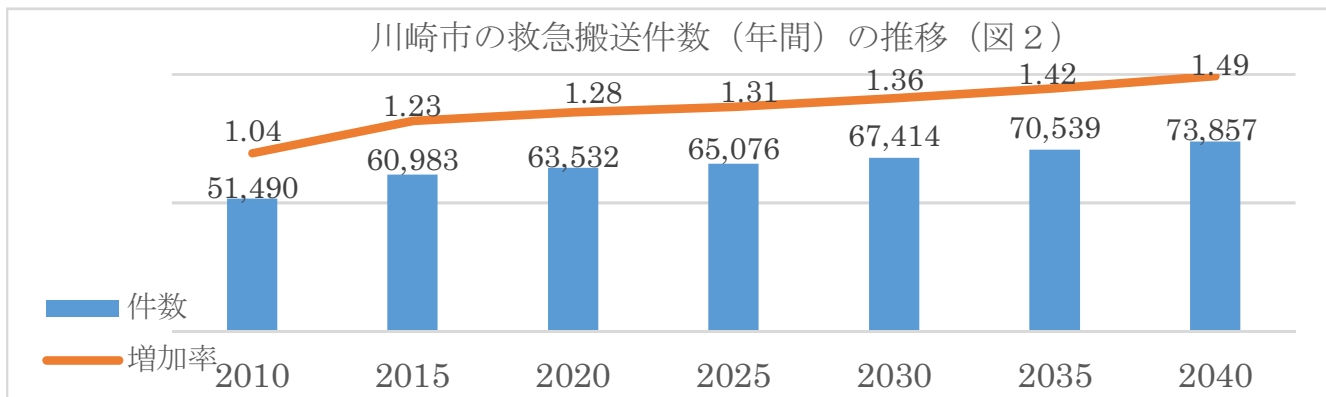
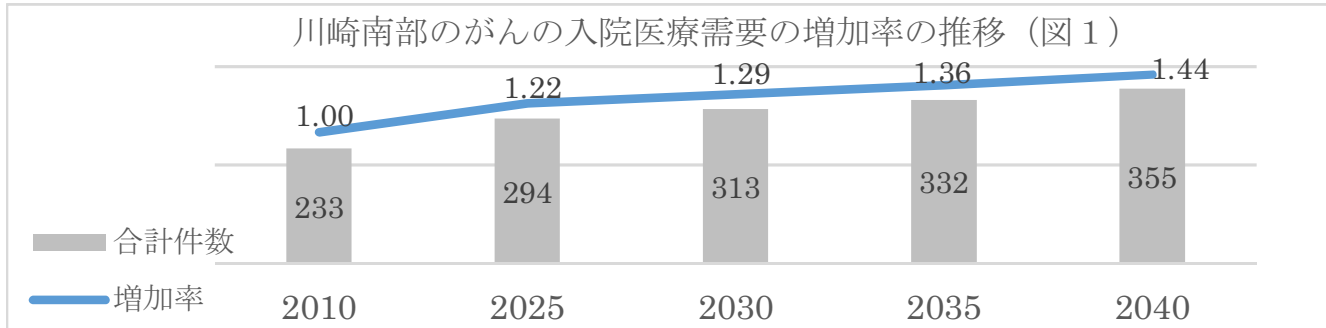


図1・2 出典：神奈川県地域医療構想 123頁、124頁

- ・出産年齢の高齢化等により需要が見込まれる周産期医療及び小児救急体制を含めた総合的な医療提供体制の確保や連携体制の構築に向けた取組の推進が必要とされている。
- ・また、精神科救急医療体制の整備及び精神疾患と身体疾患を併発した地域住民への医療提供体制の充実に取り組み、地域住民が速やかに適切な精神科医療を受けられる体制の構築が必要とされている。
- ・高齢化の進展により医療需要が増加する脳卒中や骨折等に伴うリハビリテーションによる機能回復支援の医療提供体制の維持・構築が必要であることから、リハビリテーションに係る医療機関の強化などを推進することが必要とされている。
- ・新型コロナウイルス等の新たな感染症や災害発生時においても、迅速かつ適切に必要な医療が受けられる体制の確保等の取組みが求められる。

⇒このような地域医療における課題を踏まえ、川崎病院の再編整備事業においては、救急・小児・周産期・精神・がん等の政策的な医療機能の充実を図り、医療機能の質及び量の向上をもって、上記課題に対応するものとして計画している。

2. 川崎病院医療機能再編整備事業の概要 (救命救急センター棟新築・既存棟改修)

工事期間：令和4(2022)年度～令和8(2026)年度(予定)

概算事業費：約32億円(平成29年度策定基本計画ベース、現在設計中)

(うち地域医療介護総合確保基金の対象事業費(予定)：約19億円)

主な整備：救命救急センター棟の新築

既存棟内の改修(内視鏡センター、外来治療センター、小児病棟、周産期部門、精神科病棟、病棟リハビリ室等)

事業詳細：別紙参照

3. 再編整備で期待できる主な効果(指標)

事業の実績・効果等を把握できる指標	令和元年度	再編整備後
救急車受入件数	5,819台	約8,000台
平均在院日数	12.5日	11.5日

4. 「地域医療介護総合確保基金」の活用

(1) 活用の前提

- ・地域総合確保基金(以下、「基金」という)の対象は、地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業等となっている。
- ・地域医療構想の達成は、地域全体で取り組むものであるため、地域の医療関係者等の理解が得られ、地域医療構想調整会議での協議が整った場合、国とも必要な調整を図ったうえで基金の活用が可能となる。

(2) 基金の活用について【協議していただきたい事項】

- ・当該再編整備事業は、地域の他の医療機関では対応困難な患者の受入など、地域の基幹病院として機能の充実を図るとともに、当該機能を活用した病床連携の強化、当該病院が有している「地域医療支援病院」としての機能の向上などをもって病床機能の分化・連携及び地域包括ケアシステムの構築に寄与することができる。
- ・令和3年度以降の基金計画を策定するにあたり、『地域医療構想の実現』に資する機能強化に係る部分について、基金の活用をお願いしたい。

5. 今後のスケジュール

令和2年11月 第2回地域医療構想調整会議

令和3年2月 第3回地域医療構想調整会議

令和3年3月 神奈川県保健医療計画推進会議

令和3年4月～ 国とのヒアリング開始(予定)